

図書館30年の歴史



新図書館車「せっしゅう文庫」【写真6】



そうじゃ言葉の力大会【写真5】



ブックスタート事業【写真4】



えほんのもり【写真3】



電算システムの稼働【写真2】



町村訪問パレード【写真1】

24年 4月	市図書館が文部科学大臣表彰を受賞
23年 9月	図書館システムの更新
23年 11月	ホームページリニューアルと携帯サイトの開設
22年 3月	新図書館車「せっしゅう文庫」の購入【写真6】
22年 8月	清音公民館図書室のオープン
22年 11月	市図書館と山手公民館図書室の一体運用開始
21年 5月	「おはなしのへや」(絵本の読み聞かせ)が開始される
21年 6月	「としょかんだより」(子ども版)・新着案内発行開始
20年 4月	幼児向けの絵本の読み聞かせ「おひさまタイム」が始まる
20年 6月	出前講座(大人向けの読み聞かせ)が始まる
20年 8月	夏休み子ども工作教室が開催される
20年 11月	郷土史講座が再開
20年 12月	第2次総社市子ども読書活動推進計画策定
19年 3月	そうじゃ言葉の力大会が始まる【写真5】
19年 10月	図書館システムの更新
18年 10月	ブックスタート事業が始まる【写真4】
18年 12月	インターネット予約が始まる(図書館システム更新)
17年 3月	ティーンズコーナーが設置される
17年 4月	乳幼児向けの絵本の読み聞かせ「このゆびとまれ」が始まる
17年 6月	「えほんよんで」事業が始まる
17年 10月	おはなしボランティア養成講座が開講
17年 12月	総社市子ども読書活動推進計画策定
15年 4月	総社市・山手村・清音村が合併
15年 6月	広域利用の解消(真備町が倉敷市と合併したため)
14年 3月	ブックスタート事業が始まる【写真4】
14年 4月	「えほんよんで」事業が始まる
14年 12月	雑誌リサイクルの実施(その後3年毎に実施)
13年 7月	広域利用(総社市・山手村・清音村・真備町)が始まる
13年 12月	ホームページの開設と横断検索システムの利用開始
12年 7月	リニューアルオープン(「えほんのもり」などの新設)【写真3】
12年 12月	「おはなしのへや」(絵本の読み聞かせ)が始まる
12年 12月	西公民館に配本所が開設される
11年 11月	電算システム稼働記念式・コンピュータが稼働【写真2】
11年 7月	平和図書コーナー設置
11年 8月	情報ネットワーク「ふるさとの知恵袋」が開設される
11年 12月	総社の昔を語る会が開催される(高瀬舟の体験談)
11年 10月	図書館車の更新
11年 9月	ポルトガル語の本を購入
11年 7月	りんご読書会が始まる
11年 2月	ビデオの貸出開始
11年 7月	CDの貸出開始
11年 10月	パソコンによる新システムが稼働

昭和 57年 5月	市図書館が開館
昭和 58年 10月	図書館車による巡回が始まる
昭和 59年 1月	朗読技術講座が開講
昭和 60年 12月	郷土史講座が開講
昭和 60年 8月	古文書講座が開講
昭和 61年 12月	児童奉仕活動として「クリスマス会」が開催される
昭和 61年 4月	「おとぎのへや」(絵本の読み聞かせ)が開催される
昭和 62年 11月	読書感想文コンクールが始まる
昭和 62年 8月	ボランティアによる紙芝居が始まる
昭和 63年 10月	「世界の絵本展」が開催される
昭和 63年 5月	図書館車による町村訪問パレードが行われる【写真1】
昭和 63年 5月	おはなしを語る会ボランティア養成講座が開講
昭和 63年 5月	子ども読書週間行事として「としょかんまつり」が開催される
平成 元年 4月	「おはなしのへや」(絵本の読み聞かせ)が始まる
平成 2年 11月	西公民館に配本所が開設される
平成 3年 5月	電算システム稼働記念式・コンピュータが稼働【写真2】
平成 3年 7月	平和図書コーナー設置
平成 4年 8月	情報ネットワーク「ふるさとの知恵袋」が開設される
平成 4年 12月	総社の昔を語る会が開催される(高瀬舟の体験談)
平成 4年 10月	図書館車の更新
平成 4年 9月	ポルトガル語の本を購入
平成 6年 7月	りんご読書会が始まる
平成 7年 2月	ビデオの貸出開始
平成 7年 7月	CDの貸出開始
平成 8年 10月	パソコンによる新システムが稼働



図書館スタッフ一同

図書館開館30周年記念事業の一つとして、11月25日(日)午前10時から「一日子ども図書館フェスティバル」を市図書館と総合福祉センターで開催します。みなさん読書の秋を楽しむイベントにご参加ください

これからの図書館
 読書は想像力を豊かにし、言語を学び、感性を磨くために欠くことができないものです。そのため、本の楽しみに出会う機会を提供し、読書の大切さを認識してもらう場として、図書館の存在は大変重要です。
 これからも、図書資料の充実、電算システムを活用したサービスの向上、自動車文庫による地域の読書活動の推進などを進め、市民のニーズにこたえ、市民に親しまれる図書館を目指します。



おはなしを語る会代表 大森 文子さん(写真左)と
 ドリームブックネット総社代表 川上 重子さん(写真右)
 「図書館の人たちはいい人ばかり。子どもたちがたくさん図書館に来てくれるとうれしいです」と、はつらつと話す大森さん。「読書はとても楽しいですよ。家庭でも親子でしっかり本を読みましょ」と、呼び掛ける川上さん

子どもの読書活動の推進
 市は、子どもの読書離れが進んでいるなか、読書習慣の形成、読書環境の整備などを目標に、読書活動を推進しています。そして、図書館、学校・園、ボランティア団体間が連携を図り、相互協力して活動を進めるため、「読書活動を推進する会」を設立しました。
 活動を支えているのは、地域の読み聞かせボランティア団体。その団体のひとつ「おはなしを語る会」は平成元年から活動を始め、平成20年に文部科学大臣表彰を受賞しました。また、平成18年には、こういったボランティア団体のネットワーク「ドリームブックネット総社」が発足し、計画的で効率的な活動を行っています。